

2023年10月20日

立教大学国際学術研究交流制度
2023年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	異文化コミュニケーション学部・特別専任教授
氏名	武田 珂代子
派遣機関名	Interpreting and Translation Research Institute (ITRI), Hankuk University of Foreign Studies (HUFS) 所在国：韓国
研究テーマ	日本と韓国におけるトランスレーション・ポリシーの比較研究
派遣期間	2023年9月3日～2023年9月25日（23日間）
研究経費	420,760円

2. 派遣期間中の活動

離日日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2023/9/3	離日
2023/9/4	HUFSで同時通訳ラボ、国際会議場などの施設を見学
2023/9/5	大韓民国歴史博物館で展示説明の翻訳状況を調査
2023/9/6	ソン・ヨンスク教授、イ・ジョヨン准教授からHUFS通訳翻訳大学院・通訳翻訳研究所の現状について説明を受け、本学の状況と比較しながら討議
2023/9/7	韓国文学翻訳院で活動内容の説明を受け、討議
2023/9/9	戦争記念館で展示説明の翻訳状況を調査
2023/9/11	ジョン・チェルジャ教授から医療通訳・法廷通訳・難民通訳の資格認定国家試験・訓練プログラムについて説明を受け、日本の状況と比較しながら討議
2023/9/13	キム・ジナ教授から中国語翻訳通訳プログラムの概要と中国語コミュニティ通訳の状況について説明を受け、討議
2023/9/14	イ・サンビン教授から韓国におけるトランスレーション・ポリシー（TP）やコミュニティ通訳に関する研究状況について説明を受け、討議 バン・ギョヤン教授からロシア語翻訳通訳プログラムの概要とロシア

2023/9/15	語コミュニティ通訳の状況について説明を受け、討議 ソウル定住外国人センターを見学し、活動内容、特に言語支援について説明を受け、討議
2023/9/16	カン・ジへ教授（亜州大学）から韓国における TP やコミュニティ通訳に関する研究状況について説明を受け、討議
2023/9/18	ジョン・チェルジャ教授と今後の共同研究や TP の日韓比較に関するシンポジウムの開催の可能性について討議
2023/9/21	キム・ハンシク教授から日本語通訳翻訳プログラムの概要、韓日放送通訳の現場、日本語コミュニティ通訳について説明を受け、討議
2023/9/24	ソウル工芸博物館で展示説明の翻訳状況を調査
2023/9/25	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

「派遣研究員」としての今回の研究目的は韓国におけるトランスレーション・ポリシー (TP) のいくつかの事例について聞き取り調査および資料収集を行い、日本の状況と比較しながら、HUFSS 教授陣や関係者と討議をすることだった。特に、医療通訳、法廷通訳、難民通訳に関する政府のポリシー、韓国外交部・国防省における通訳状況、翻訳を通して韓国文学を国際的に普及させる政府の取り組み、ソウル市の外国人住民支援における通訳翻訳状況、博物館・美術館の展示翻訳などについて情報を収集し、さまざまな課題について理解を深めることを目指した。以下は、収集した情報やそれに対する洞察を簡潔にまとめたものである。

1. 医療通訳、法廷通訳、難民通訳では、韓国政府による資格認定制度があり、認定試験に向けた訓練プログラムも政府が支援している。同様の資格認定制度が全く存在しない日本とは対照的である。また、認定試験や訓練プログラムの計画、開発、実施、評価に HUFSS や梨花女子大学の通訳翻訳大学院の教員が直接関わっているという点も、日本との比較で検討すべき事項である。こうした取り組みに直接関与してきた HUFSS 教員らによると、対象言語が多様化する中、「マイナー言語」の通訳者の訓練・試験方法などが課題になっているという。

2. 韓国外交部・国防省における通訳は、過去において、外交官など通常の職員が担当した時期があった。しかし近年では、HUFSS の通訳翻訳大学院などで専門的な訓練を受けた通訳官が両組織の通訳を担当している。HUFSS の教授らが外交部と交渉をして、これら通訳官の地位を外交官並みのレベルに上げることに成功したということだった。

3. 政府創設の韓国文学翻訳院でも、質問に丁寧に答えていただき、有意義な聞き取りができた。特に、推奨される翻訳プロセス、機械翻訳 (MT) の使用、翻訳者養成アカデミーについて、近年、同院で方向転換があったことを興味深く受け止めた。具体的には、韓国語の母語話者と目標言語の母語話者のチーム翻訳よりも、目標言語の母語話者による翻訳を重視するようになった点、MT をツールの一つとして捉え、MT 訳を翻訳者が後編集する作業に創造性があるとして、文芸翻訳における MT 使用の有効性を認めた点、アカデミー修了生に修士号を授与するための法改正に取り組んでいるといった点は、今後参照すべき重要情報だと考える。

4. ソウル市が運営する定住外国人センターでは、ビザの種類によって、対応施設の場所や対応内容が異なっている。今回は、ビジネスや投資とは関係ないビザを持つ外国人に対応す

る施設を訪問し、対応言語や相談内容などについて聞き取りをした。中国語、英語、ベトナム語、ロシア語、モンゴル語などに対応できる職員だけでなく、ビザ関係の相談に対応できる弁護士も定期的に配置されるとのことだった。また、無料の韓国語教室も提供されている。

5. 国立の博物館や美術館の展示説明では、基本的に、英語、中国語、日本語の翻訳が提供されているが、内容によっては英語のみが提供されている場合がある。今後、日本の博物館・美術館などの状況との比較を検討したい。

聞き取りや討議を通して得られた情報や洞察に加えて、上記の取り組みの詳細を体系的に扱った論文や政府刊行の資料も HUFSS の教授や関係者から共有していただいた。今後の研究で活用していきたい。今回の HUFSS 等での研究調査の成果はすでに、本学での授業、学外での講演や研究会などで共有している。

HUFSS は、アジアで最も歴史の古い通訳翻訳専門職大学院を擁しており、国際会議場のような教室で実践的な授業ができるような体制を持っている。厳しい競争と訓練を経てきた学生のレベルは極めて高い。(報告者の聞き取りで通訳をしてくれた学生が2人いたが、非常に優秀だった。) 大学院における通訳者・翻訳者養成の王道を歩んできた HUFSS から教育面で学ぶことは多い。これからも意見交換のための交流を続けていきたい。また、HUFSS 教授陣との討議の中で、TP の日韓比較に関する共同研究の重要性について認識を共有することができた。来年度、医療通訳や難民通訳の認定制度および訓練プログラムに関わってきたジョン・チェルジャ教授などを本学に招聘し、TP の日韓比較に関する国際シンポジウムを開催できるよう、計画を進めているところである。